

てぶ ししゅう
手振り刺繍職人

かりや しょうこ
仮屋 昭子 さん (75)

小林人

こばやしびと
Vol.67

小学生が私の刺繍した帽子を被って いることは誇り。元気な限り続けます。

手と足でミシンを巧みに操り、文字や絵を生地に刺繍する日本独自の技法「手振り刺繍」。その文字や絵

せん。そのため、一文字ずつ気持ちを込めて大切に刺繍しています。

刺繍できるように勉強は欠かせません。

には、職人の個性があり、どこか温かみがある。今では、機械ミシンの普及とともに担い手が減少し、全国的にも貴重な存在となっている。この技術を使い、40

手振りミシンは、足元のペダルを踏む強さで速さを調節し、右膝あたりについているレバーで振り幅を操作する。さらに、生地を指

「私も20年やっています。母の技術には、到底追いつけない」とその技術力の高さに憧れる。

年以上市内の小学生の赤白帽に名前を刺繍している人がいる。中央商店街にある帽子店「のうらや」の仮屋昭子さん、75歳。

「ちょっと手作業なので、コンピューターのように同じものを作ることはできません。そのための、一文字ずつ気持ちを込めて大切に刺繍しています。」

「小学生が私の刺繍した文字の入っている帽子を被っていることに誇りを感じています。これからも、元気な限り続けていきます。」

「一つ一つ手作業なので、コンピューターのように同じものを作ることはできません。そのための、一文字ずつ気持ちを込めて大切に刺繍しています。」

「ちゃんとした文字を刺繍できるまで、3年かかかりました。40年やっていても、まだまだです。今でも、硬筆を習い、もっと上手に

もうすぐ入学式のシーズン。新しく小学校に通い始める新入児童のために、今日も、心を込めて刺繍する。



④「手をかけただけ、時間をかけただけ、いいものができる。子どもたちのためにもっと頑張らないと」と笑顔を見せる。⑤ 使用するミシンも珍しく、今ではほとんど製造されていない。「ごまめに油を差して大切に使っています」と仮屋さん。